

2 イチゴ「やよいひめ」の育苗技術の改善と出荷前進化について

情報提供：中部農業事務所
渋川地区農業指導センター
西部農業事務所
藤岡地区農業指導センター

活動の背景

県で育成されたイチゴ「やよいひめ」は、わき芽の発生が少なく、大果で果皮がしっかりしているため、管理作業や収穫調製の省力化が図れる。また、栽培に適した最低夜温が「とちおとめ」より低く、電照が不要であることから、暖房費や電気代の削減が可能であることから、「やよいひめ」の作付拡大を積極的に推進している。しかしながら、従来から行われている山上げ育苗では、収穫開始時期が12月下旬～1月上旬からとなり、本格的な需要期に販売ができないことが大きな課題である。また、近年育苗期の天候不順等から炭そ病等の発生が多く見られ、健全苗の生産が課題となっている。

普及活動の経過

(1) 補助事業導入による施設整備と技術支援

県単独事業「やよいひめ」ぐんぐんアップ支援事業により、県内産地に育苗施設の整備が行われた。渋川地区農業指導センター管内では、雨よけハウスや高設ベンチなどの育苗施設が導入され、健全苗生産に向けた技術確立を支援した。



高設ベンチ育苗（渋川地区）

(2) 育苗実証ほの設置

藤岡地区農業指導センター管内では、出荷の前進化と健全苗生産を目的に、山上げ育苗に替わる新しい育苗技術としてポット育苗を推進した。また、拠点的な農家に簡易な高設ベンチによる栽培の実証ほを設置し、安価な資材を利用した新しい技術として地域への普及を図った。

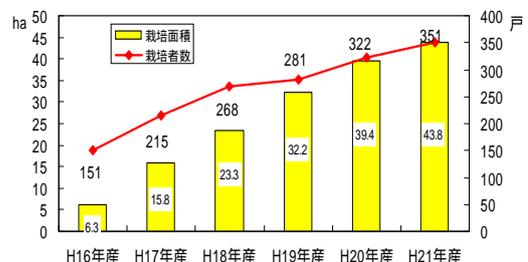


簡易な高設ベンチによる実証ほ（藤岡地区）

普及活動の成果

「やよいひめ」の有利性が県内の産地に認知されてきたことから、今年度の「やよいひめ」作付面積は約43.8haとなり、着実に栽培面積が増加している。

渋川地区では育苗技術の改善により、炭そ病の発生が少なく、健全苗の生産ができた。また、藤岡地区ではポット育苗を16戸の農家が導入し、12月上旬から出荷がされたことから、育苗法改善に向けた生産者の意識が高まっている。



技術のポイント

「やよいひめ」の作付けにより、大果個数割合が増加し、作業の省力化とコスト削減が可能となる。また、育苗技術の改善により、出荷開始時期の前進化が図れることから、所得増加に結びつく。